　　　　　　　　　　　　　　　　私の履歴書

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　篠田光直

　　　　　　「戦争の悲惨さ」

　　　　　　　昭和十二年生まれの今年８０歳。日米開戦時の駐米大使野村吉三郎

　　　　　　　を叔父に、海軍将官の父を持つ私が国民学校二年生の時に終戦。父

　　　　　　　は海軍マレー航空隊司令として不在、藤沢で留守家族の母と７人の

　　　　　　　子供達は空襲警報に逃げ惑った。日本中が焼き尽くされ、日本人が

　　　　　　　皆殺しにあうような残酷な戦争が何故実在したのか。「戦争のない

　　　　　　　世の中にするにはどうしたら良いのか」が私の終生の テーマとなる。

　　　　　　「戦後の貧困」

　　　　　　　日本中が飢えに苦しんだ戦後。父は遅い復員でなんとか生きて帰っ

　　　　　　　てきたが、体力を使い果たしたのだろう間も無く死亡。私の小学校

　　　　　　　時代は貧困の極み、生きていくだけでやっと。長兄（終戦時１６歳）

　　　　　　　、次兄が学校に行かずに働き、私たちの食料を確保してくれた。

　　　　　　　私の小学校の卒業写真は靴が買えなくて、下駄を履いて写っている。

　　　　　　「大学受験」

　　　　　　　兄の犠牲のもと大学受験。東大を目指すも受からない。２度目に落

　　　　　　　ちた時の絶望感は忘れられない。優しい兄はもう一回受けて良いと

　　　　　　　いう。以後懸命の勉強を続けてやっと東大に入った。

　　　　　　「大学生活と就職」

　　　　　　　最初の年は授業料免除。週３回の家庭教師のアルバイトを４年間続

　　　　　　　け、外交官を目指して勉強したが、途中で挫折。就職先は民間企業

　　　　　　　として、当時難関で知られた興銀に挑戦、採用された。

　　　　　　「経営コンサルタント」の道。

　　　　　　　興銀の主流は審査部。上から目線の審査を嫌って、ドラッカーなど

　　　　　　　が出てきた経営学を学びたく、アメリカのMBAを目指して社内留学

　　　　　　　生試験を受けるが、超難関で駄目。ならばと当時国内のMBAたる日

　　　　　　　本生産性本部の経営コンサルタント養成講座受講を希望。めでたく

　　　　　　　一年間銀行業務を離れて勉強。

　　　　　　「外国への想いは絶ち難く」

　　　　　　　経営コンサルタントとして、取引先の社員の中に入って経営改善の

　　　　　　　仕事をしていたが、外国への想いは絶ち難く、外国部に異動。ロス

　　　　　　　アンゼルス支店開設のため待望の渡米。四年間駐在。

　　　　　　「住んでみてわかったアメリカ」

　　　　　　　厳しい仕事の傍、アメリカ人とのフランクな交流、音楽会鑑賞、ド

　　　　　　　ライブ旅行など家族と共に満喫。アメリカに深く入り込む。

　　　　　　　アメリカの生活は金がかかる。貧乏人には辛い社会。例えば車社会

　　　　　　　を前提に街づくりした結果、車がないと学校にも職場にも行けない。

　　　　　　　成人一人に一台車を持てるかどうかで生活に決定的な差がでる（ニ

　　　　　　　ューヨークだけは例外）。アメリカの「格差社会」「寂しいアメリ

　　　　　　　カ人」などは交通網のインフラを作り変えない限り解消できない。

　　　　　　「アメリカの良さ」

　　　　　　　それでもアメリカとアメリカ人は好きだ。ドリームカムツルー、ツ

　　　　　　　マローイズアナザーデイ、ノープロブレム。前向きな楽観主義。

　　　　　　　多様な人種の集まりで小柄な私や妻でも、なんのコンプレックスも

　　　　　　　ない。英語も下手で問題はない。日本人でうまいと思っていた人で

　　　　　　　も、アメリカ人に比べるとたいしたことがないことがわかった。

　　　　　　「経営建て直し屋の人生」

　　　　　　　経営コンサルタントと国際業務の経験を武器に、興銀内の合理化作

　　　　　　　業の後、役員として取引先３社の会社の中に入って経営の立て直し

　　　　　　　に従事。国際業務の効率化でドイツ人夫妻との交流など多々。いず

　　　　　　　れも順調に経営改善して満足。

　　　　　　「興銀の消滅」

　　　　　　　私が銀行を去った後、尾上縫事件を起こした興銀が合併を余儀なく

　　　　　　　され、みずほ銀行になった。かくて圧倒的に人数の少ない興銀のD

　　　　　　　NAは無くなった。素晴らしい社風と仕事ぶりを持った興銀が消滅

　　　　　　　したことは誠に残念。経営の人為的判断ミス。金融債で資金を調達

　　　　　　　するビジネスモデルが既に破綻しているのに、預金業務主体の銀行

　　　　　　　業務を選ばなかったこと。東銀の合併など何度もチャンスはあった。

　　　　　　「趣味の音楽、スポーツ、読書など」

　　　　　　　生まれつきの音楽好き、オーディオと合唱。相撲、水泳、野球、登

　　　　　　　山、ジョッギング、ゴルフなどのスポーツ大好き。今はもっぱらテ

　　　　　　　レビ観戦。音楽会と落語に通う。本屋を毎日のように覗き、本を買

　　　　　　　ってくる。年はとったが頭は冴えて読書がはかどる。想定外の喜び。

「二度にわたる胃癌の手術」

　　　　　　　最初は内視鏡。次は胃の全摘。現代医学のおかげで元気。

　　　　　　　癌は色々、できた場所、進行度の違いで、治療も異なる。

　　　　　　 「結語」

　　　　　　　妻は中学、高校、大学の後輩。無類の頑張り屋。私は母を含めた女

　　　　　　　性の崇拝者。男性は女性にかなわない。

　　　　　　　日本人と日本は世界から好かれる。しかし欧米人は決して心からの

　　　　　　　仲間には入れてくれない。キリスト教ではないから。

　　　　　　　妻と息子はキリスト教徒。私はクリスチャンではないが、キリスト

　　　　　　　教を信奉。全能の神の前では人間のできることはたかが知れている

　　　　　　　が、日々自分の判断はこれで良いのだろうかと自省し、謙虚に驕る

　　　　　　　ことなく学び続けるべし。

　　　　　　　戦争を回避するには相手の立場をできるだけ忖度する。特に相手の

　　　　　　　イデオロギーと宗教に深い理解と敬意が必要と考える。